
妹との約束

黒木猫人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妹との約束

【Nコード】

N4971E

【作者名】

黒木猫人

【あらすじ】

今、俺の目の前には真っ赤な死体が転がっている。

これが夢であつたならどんなにいいだろう、と俺は思った。

八月中旬の太陽が窓の外から容赦なく室内を照らし、妹である美鈴^{みず}の部屋は、熱気と湿気で混沌とした空気に満ちている。立っているだけで玉の汗が浮かんで、俺の頬を伝う。

真つ赤な死体が小さな部屋に横たわっていた。水面に浮くように、まるで眠るように。人間も死ぬとこんな風になるのか。

「俺が殺した……のか？」

どうしてこんなことになつてしまつたのだろうか。決して悪気があつたわけじゃない。決して恨みがあつたわけじゃない。

しかし目の前にはあるのは、確かに美鈴の。

頭を抱える。これが露見したら、俺は一卷の終わりだ。もう二度と太陽の光の下に立つことは出来なくなるだろう。待っているのは、死のみ。

ならば、俺のとるべき行動は一つしかない。

「死体を……隠す……！」

そう……死体など、元々なかつたことにしてしまえばいい。

不幸中の幸いにして、両親は二泊三日の旅行に出掛けており不在、この家には今、俺一人しかない。

そうだ、死体は庭に埋めよう。両親にガーデニングの趣味はないし、埋めた場所を毎日こまめにチェックしていれば、たとえ野良犬等に掘り返されたとしても、すぐにフローリングすることが出来る。

消えた存在の辻褄合わせは、埋めた後で考えればいい。まずはこの死体が露見しないことが重要だ。

事件が発覚しなければ、どんな名探偵であろうと謎の解きようがないのだから。

確か、スコップは幾つか物置にあつたはずだ。自転車の空気入れを取りに行った時に、何度か見掛けたことがある。

よし、問題ない。実に単純な作業だ。時間は十分にあるし、落ちて着いて冷静にやれば、つつがなく終わる。

「悪いな……俺を恨むなよ……美鈴」

死体を抱きかかえると、俺は家の外へと向かった。

玄関の扉を開くと同時に、焼けるような空気が室内に流れ込んでくる。見上げた太陽の眩しさに、思わず目を細めた。しばらくして、アブラゼミが鳴いていることに気付く。

物置へ行くと、屋外とは対称的に冷たい空気を湛えていた。暗い室内に目を凝らし、スコップを探す。

しかし、こういう時に限って肝心の物が見つからない。もしこれで見つからなかったらと考えると、背中を冷や汗が流れる。

「あつた……！」

焦りが募り始めた所で、ようやく片手に、ひやりとした感触を確かめる。

俺は庭に向かった。適当な場所を探し、無造作に生えた繁みの裏に決めて、地面にスコップを突き刺した。思っていたよりも土が柔らかく、切っ先が奥まで沈む。

これならあまり苦勞せずに深い穴が掘れそうだ。口元も自然と緩む。

その時。

「え……？」

背後から、一つの足音が聞こえた。最初は気のせいだと思った。

いや、思おうとした。

だが、足音はまた一つ、また一つと反響して、俺の方へと近付いてくる。

気のせいじゃない。間違いなく誰かが俺の方へとやって来ている。やがて、足音は俺の後ろで止まった。

動こうとしない首を叱咤して、俺は恐る恐る振り向く。

赤いスニーカーに、健康的な太もも、青い短パン、露出したお腹、白いＴシャツ、ショートボブの髪。手にはスポーツバッグを持って

いる。

「み……美鈴……！」

「よっ！ ただいま、兄貴。こんなところで何してんのさ？」

笑顔の妹の姿が、そこにあった。

背筋が急速に冷却されて行くのが分かる。妹から視線をはずすことが出来ない。すぐ近くには死体が置いてある。

「お、お前……ボクシング部の合宿で、帰ってくるのは今日の夜になるはずじゃ……」

「うん、そうだったんだけどさ。帰り道が思ってたより空いてて。かなり早く帰ってこれちゃった」

……どうする？

ふと、そんな言葉が俺の脳内を過った。

目の前には、妹、死体。露見したら俺に未来はない。

さあ、選択しろ、俺。

こうなったらもう……やるしかない！

「申し訳ありませんでしたあーッ……！」

俺はその場で、思いつきり土下座した。

「……は？」

俺の横には、真っ赤な金魚の死体が転がっていた。

「ねえ……兄貴？」

ポキポキと美鈴が拳を鳴らし始める。

「合宿行く前にさ、私と約束したよね？ ……ちゃんと世話するって」

「いや、まさかね、一日エサをやるのを忘れてただけでこうなるなんて、夢にも思わな……おわっ、美鈴！ タンマ！ ジャブで地面が抉れ……ていうか、それは伝説のヒットマンスタイル……ぎゃああああああああッ……！」

この後に起きた真の惨劇は……まあ、皆様のご想像にお任せするということ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4971e/>

妹との約束

2011年1月3日23時07分発行